



# 麻布幼稚園だより

令和5年2月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

もうすぐ節分、そして立春を迎えます。寒い日が続きましたが、園庭のプランターに植えられた日本水仙が、凛とした佇まいで咲き始めました。梅の花の蕾も膨らんでいます。季節は春へと確実に進んでいることを感じます。



先日は、「正月遊びの会」へご参加いただきありがとうございます。「コマを回せるようになって成長を感じました。」「子供とじっくりと向き合って遊ぶ貴重な時間となりました。」「子供の頃に遊んだ楽しさを思い出しました。家でもまた子供と遊びたいと思います。」などの感想をいただきました。

コマは学年の発達に合わせた物を一人一つずつ持ち、繰り返し遊んでいます。5歳児年長組のコマは投げゴマ。ヒモをしっかりと巻き回せるようになるには、根気が必要です。先生や回せるようになった友達にコツを教えてもらい、回せない自分と向き合いながら何度も挑戦して回せるようになったときの喜びは、子供の成長にとって大きな意味をもつものです。

子供たちは、パソコンなどの情報機器を日常の中で使う生活かと思えます。そして、小学校以降の学習ではタブレットを使用することになります。スマートフォンも大人になる前に持つことが多いでしょう。便利な一方で刺激が多いことや使用の仕方に難しさもあるものです。子供たちは、情報機器に振り回されることなく、使いこなす力を身に付けていく必要があります。情報機器が日常の中に当たり前にある生活だからこそ、幼児が身体の諸機を働かせて関わる経験、自分の力でやり遂げる経験など、直接体験をすることを今まで以上に意識していかなければならないと思えます。

今冬の寒さは、子供たちが氷に関わる機会をたくさんもたらしてくれています。寒い日の朝、凍結防止のために出していた外水道の水が凍っているのを発見。固く凍った氷、おもしろい形の氷に子供たちは驚いたり喜んだり、ひとしきり朝の時間を楽しみました。その日の帰りは、氷になることを期待して砂遊びの容器などに水を入れて帰っていました。翌日、予想通りに固い氷、入れ物の形に凍っているのを見て大喜び。また、同じように容器に水を入れて帰りました。ですが、次の日は全く凍らず、「どうして?」と少しがっかりとした様子でした。その後も、同じように置いても表面だけが凍っているなど、まだまだ実験と探求が続いています。

各学級では、こども会の劇遊びに向けての活動が始まっています。ストーリーに沿って友達と動くことが楽しい、友達と声や動きが揃うのが楽しい、自分たちで動きや言葉を考えつくり上げていくことが楽しい等々、発達による楽しさはいろいろです。観ている大人には、「かわいい」子供たちの劇遊びですが、そこには子供たちの真剣な取組や成長の姿があります。観客となる保護者の皆様には劇遊びの一員として、子供たちの育ちにも目を向けながら、温かい眼差しや拍手で、応援していただければと思います。

3学期も折り返しとなります。充実の日々を過ごしていきたいと思えます。